2021年度 経営の視点

ブランドの強化

2020年度、銀山学園が創設されてからの『50年の節目』の集いを開催することが出来ませんでした。新たな想いをもって新たな時代を創造する歩みを開始したいと思えます。全世界が新型コロナウイルスの前に立ち止まり対応に追われました。この緊張感は続きます。これまで十分に手の届いていなかった弱い立場にある人々の生活を揺るがしています。コロナ後の生活を前の状態に戻すのではなく、弱さを受け止め、共に担い合う社会を構築する体制が強化されなければなりません。

50年の歩みを振り返ると、銀山学園創設時からの基本姿勢は、ニーズの高い方を優先して受け止めるということです。そのことをこれまで継承し、一人ひとりの個としての人格・生命、地域の一員としての生活、豊かに年齢を重ねる人生に寄り添って、取り組みを進めてきました。現在は、乳幼児から高齢期に至るまで療育・生活・活動・作業・就労等、多角的・多面的な事業や事業範囲も所在地域内を超えて後志地区全域での生活課題や就労に関する相談支援等の取り組みも行っています。社会的・時代的な要請をふまえて、それぞれの年齢や多様な特性、支援課題と向き合い専門性を高めて事業を行ってきました。ある日、ふらっと立ち寄り、作業・活動の様子を見学した大学教授が「皆さんの笑顔が素敵ですね」との感想を語ってくれました。私たちの取り組みに対する社会的に高い評価を表していると思えます。それは言葉をかえていえば法人の『ブランド力』ということも出来ます。ただ中に身をおいていると『良さ』を感じないかもしれません。自惚れはいけませんが、社会的な評価は、これまでの職員一人ひとりの真摯な姿勢で創りあげてきた結果として『誇って』良いと思っています。50年を節目にその良さを一層高めていくことが求められています。時代は変化しニーズも変化します。社会の痛みは見ようとしなければ見えません。しっかりと「目をさまして」向き合っていきたいと思えます。

さて、『ブランド』などというと福祉は商売とは違うという声が聞こえてきそうです。一般的には、時間や対価を払ってでも得たい価値であり、その価値を活かしてファンを作ることといわれるようです。これを福祉の視点を踏まえて私なりに定義すると『利用者みなさんの笑顔と職員の笑顔があふれる ここで生活したい、ここに通いたい、相談したい とみんなが思ってくれる人が沢山いること』ということができそうです。この50年間継承してきた、又、積み重ねてきた姿勢は①利用される人とご家族、そして地域の方々との心の通い合いを大切にしてきたこと②今、地域にあるニーズに向き合い続けてきたこと③一人ひとりの可能性を拡げる活動にワクワクして向き合ってきたこと④困難な状況にも主体的に向き合い、客観的に見つめなおす努力をしてきたこと だと思えます。

利用したい、生活したい、相談したい、働きたい とみんなに言ってもらえるような法人の経営・運営の歩みでした。今の『ブランド』力はこれまでの取り組みの結果です。

一人ひとりの痛みを共に担い、喜びへと変えていくために、瞬間瞬間を大切にしてきた結果が今の法人の姿を創り出してきたのです。実践ばかり深めて狭い視野から現実の具体的な事柄のみに没入してしまわないように、又、理論ばかり深めて具体的なものごとへ広げる関心や現実とのつながりを失ってしまわないようにして『精神のある専門家』として一緒に成長してきたことに自信を持ちたいと思えます。しかし、そのことにおごり高ぶることなく謙虚な気持ちで新しい時代を新たな気持ちで創造していく第一歩の一年にして行きたいと願っています。

新たな50年に向かって『ブランド力』を高めることは、ヒト・モノ・カネ・トキ・シラセを十分に働かせることでもあり、同時に、そのことを創造することにもなるのです。